

20th International Symposium on Novel Aromatic Compounds (ISNA-20)への参加報告

理学研究科 理学専攻 物質・生命化学領域 機能有機化学研究室

博士前期課程 2 年 安藤 慶太

【出張先・出張期間】

カナダ/トロント

2024 年 8 月 11 日～8 月 19 日

【出張目的】

国際学会「20th International Symposium on Novel Aromatic Compounds (ISNA-20)」に参加し、研究成果の発表と最新の関連研究の動向調査を行う。

【概要】

ISNA は、新規芳香族化合物の高度な合成、構造-物性相関、応用に関する最先端の知見を発表、議論し、意見交換を行う権威ある国際フォーラムである。6 日間の学会期間中に 64 件の講演と 238 件のポスター発表が行われ、活発な議論と国境を越えた交流が交わされた。

【所感】

まず初めに、自身の専門分野において世界最大級の国際学会である ISNA の開催に際し、現地参加する機会を頂きました、名古屋大学卓越大学院プログラム:トランスフォーマティブ化学生命融合研究大学院プログラムに厚く御礼申し上げます。

分野を牽引する研究者の講演を聴講し、オリジナリティ溢れる分子設計やその機能の追求、そしてその応用に至るまでの独自の戦略に関し、新たな知見を獲得し、理解を深めることができました。また、ポスターセッションでは ”Dithienophosphepinium-Based Near-Infrared Dyes with Large Stokes Shift: $p_{\pi}-\pi^*$ Orbital Interaction Inherent to Seven-Membered Ring System” という題目で発表し、今後の研究の展開に役立つ有益な示唆を得られただけでなく、著名な研究者や海外の学生との対話を通して新たな関係を築く契機となりました。Coffee break や Banquet を通じ、さらに親睦を深めることができたことも、非常に大きな人生の財産となりました。

さらに、ISNA-20 の学会運営ボランティアに参加するご縁もいただき、チームで連携を取りながら、微力ながら本会の成功に貢献できたことを非常に光栄に思います。

最後になりますが、貴重な機会を与えてくださった山口 茂弘教授、今回の出張に関して多大なるご支援いただきました GTR 学生支援室の皆様にも深く感謝申し上げます。



上: トロント市街地

下: ISNA-20 学会運営チーム